単元の言語活動５

変体仮名を読む

活動のねらい

教科書や資料集の図版には古い時代の写本が使われていることがある。美しいなと何となく眺めるのもよいが、日本の伝統的な書記法を学び、幅広く古典に対する関心を持ってもらいたいと考え、そのことをねらいとしている。変体仮名と呼ばれるその書記法は「古文の窓４」にもあったように、現在のひらがなに通ずるものである。慣れると驚くほど速く読み進めることができるようになる。また、本文についても「、」や「。」の位置などを含め、いろいろと考えることもでてくるかもしれない。そのようなことを体感してもらうこともねらいである。

タイトル・序文の解説

ここでは『土佐日記』「門出」の部分を変体仮名で表したものを題材にひとつひとつの字母を確認しながら読んでいく。活字で読むことが当然だと思っている古文であるが、教科書で読むような形になるまでには多く手がかかっている。ポイントになる箇所を取り上げながら変体仮名を読む体験を味わいたい。

「課題」の解説

課題　**変体仮名を読んでみよう。**

それぞれの活動に入る前に図版１をざっと見て現代のひらがなとほとんど変わらないような字があることに注目させたい。例えば後ろから２行目の冒頭などは「れいのこと」と読むことができる。本文を確認してみると「例のこと」となっている。「れい」は漢字には直してあるが、仮名表記としては問題なく読むことができる。そのような箇所を導入として何か所か、生徒何人かで読み合わせてから活動に入ってもよいだろう。難なく読める箇所があることは生徒のなじみやすさにつながる。

「活動」の解説

１　**現代の平仮名と字母が異なる仮名を読んでみよう。**

①　図版２の「仮名字体表」から、図版１の□で囲った部分の字母となっている漢字を探す。

図版２は仮名字体表になっている。ひとつ気をつけたいこと

は現代語では仮名は基本的にひとつだが、古文ではひとつの仮名に対応する字体が複数あるものが存在することである。現代の仮名の元になったものはそれでも読みやすいが、現代の仮名とまったく関係のない、そのうえあまり使わない音が対応しているものが使われる場合はとまどうことだろう。しかし、いずれにしても数は限られているので、慣れれば見分けることができる。まして、今回は字が指定されており、教科書本文と合わせればそれがどの仮名であるかも容易にわかる。そのようなことを手掛かりとして字母となっている漢字を探すことになる。

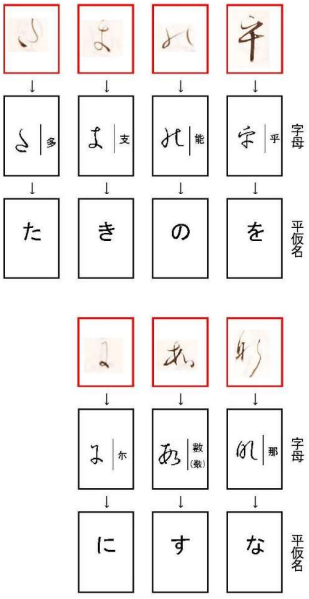
初めの字は「を」である。字体表では分かりづらいが、字母に「乎」があるので想像できる。二番目の字は「な」である。字体表を見ると「那」が当てはまると分かる。三番目は「の」であり、字体表から「能」が見つかる。四番目は「す」、字母は「数」、五番目は「き」、字母は「支」、六番目は「に」字母は「尓」、最後は「た」、字母は「多」である。通常用いている仮名の字母と異なる字母であっても読み解くことができたのではないだろうか。大切なことは「読める」と感じることであって、このような書記法になじむことである。

②　□で囲った部分を平仮名に置き換える。

①の活動で字体表すべてから探して字母を見つけた人はこの段階でそれぞれの字母を現代仮名に直す。もちろん、先立って①の段階でそれを行った人はそれが済んでいることになる。

知技(2)イ　主態

〈ワークシート記入例１〉



2　図版１を「門出」（七四ページ）の本文と比べ、本文中で句読点が付けられている箇所に句読点を加えてみよう。

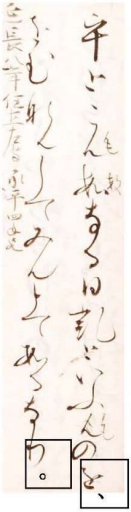
ある程度読めるめどが立ったところで、気づいたことを指摘させてもよい。漢字と仮名との使い分け、段落最初の一字空け、句読点の有無などが指摘されるであろう。試しに図版１を、字母を仮名に直して書き出してみるとよい。意外に読みにくいのではないだろうか。教科書に載っているものが、いかに形が整えられているものであるかに気づくだけでも大いに意味があろう。

活動としては本文と丁寧に合わせて句読点を付け加えていくことになる。基本的に一字一音であることを伝え、教科書本文と図版を忠実に比べていくようにする。今回の活動は学校の

実情に合わせて臨機応変に活動を組み替えるとよい。自主的に生徒が読み取っていける場合はすべての活動をいっぺんに行うことも可能であろうし、そこまではできない場合は教師が適宜段階を分けたり、アドバイスを加えたりすればよい。くずし字を読み解くことが目標ではあるが、くずし字に慣れることがより重要である。何かの機会にくずし字を目にした際に、まったく関心を持たずに素通りしてしまうのではなく、読めるかもしれないから読んでみようという気持ちになるようにして、作業を終えるようにしたい。また、「書」（書道）や展覧会等に展示してある写本などにも興味を持てるようにしたい。

知技(2)イ　主態

〈ワークシート記入例２〉



▼評価のポイント▲正しい字母を見つけることができたか、句読点を正しく打てたか、などをワークシートで確認することは可能であるが、意欲的に読もうとしていたか、変体仮名に興味を持ち今後も触れようという気持ちを持てたか、などを観察によって評価してもよい。

評価規準

〔知識・技能〕(2)イ　古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。
〔主体的に学習に取り組む態度〕　進んで日記文学の特徴や成立の背景、真名と仮名について理解し、今までの学習を生かして、変体仮名を読もうとしている。
◎学習指導要領の言語活動例との関連
〔思考力・判断力・表現力等〕　B(2)ア

（畠山　俊）

言語活動ワークシート　月　日〔　年　組　番　名前　〕

◆教科　言語文化　古文編　単元の言語活動５

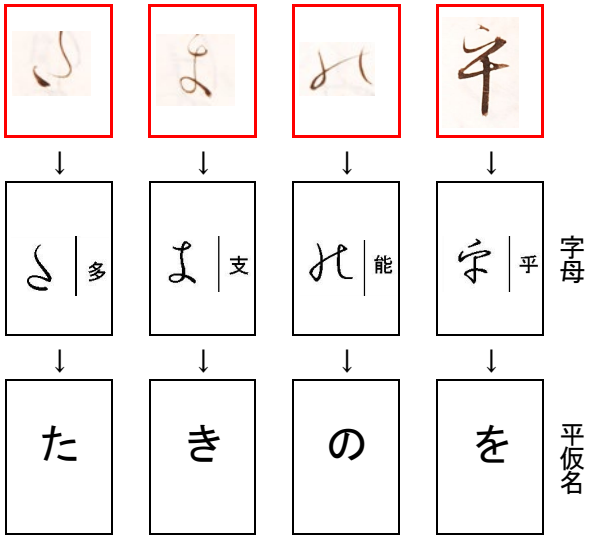
◆変体仮名を読む

課題　変体仮名を読んでみよう。

1 現代の平仮名と字母が異なる仮名を読んでみよう。

①図版２の「仮名字体表」から、図版１の□で囲った部分の字母となっている漢字を探す。

②□で囲った部分を平仮名に置き換える。



2 図版１を「門出」（七四ページ）の本文と比べ、本文中で句読点が付けられている箇所に句読点を加えてみよう。

